

各位

全3ページ  
登録速報(2019-005)  
2018年11月 7日  
クミアイ化学工業株式会社  
企画普及部普及課

## 登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。

適用拡大登録年月日：2018年11月 7日

### 記

1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第23819号

名称：ヤブサメジャンボ

2. 適用病害虫の範囲又は使用方法の変更の内容

農薬登録申請書第7項中、以下を変更し、別紙1【変更後】のとおりとする。

・作物名「直播水稻」を追加する。

3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容

農薬登録申請書第8項中、10)を追加し以降を繰り下げ、別紙2【変更後】のとおりとする。

#### 【追加部分】

10) 直播水稻に使用する場合、以下の点に注意すること。

①発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない、稲の1葉期以降に散布すること。

②稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。

③除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。

別紙 1

【変更前】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草及び マツバ <sup>イ</sup> ホタル <sup>イ</sup> ウリカ <sup>ワ</sup> ミス <sup>カ</sup> ヤツ <sup>リ</sup> ハラモ <sup>カ</sup> ヒルム <sup>シ</sup> セ <sup>リ</sup> オモ <sup>カ</sup> クク <sup>ワ</sup> コウキ <sup>カ</sup> アミ <sup>ド</sup> ロ・藻類による 表層はく離	移植後 3 日～ ノビ <sup>エ</sup> 2.5 葉期 但し、移植後 30 日まで	小包装 (ハ <sup>ッ</sup> ク) 10 個 (250g) /10a	1 回	水田に小包装 (ハ <sup>ッ</sup> ク)のまま 投げ入れる。

ピラクロニルを 含む農薬の総使用回数	ピリミスルファンを 含む農薬の総使用回数	フェノキサリホンを 含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草及び マツバ <sup>イ</sup> ホタル <sup>イ</sup> ウリカ <sup>ワ</sup> ミス <sup>カ</sup> ヤツ <sup>リ</sup> ハラモ <sup>カ</sup> ヒルム <sup>シ</sup> セ <sup>リ</sup> オモ <sup>カ</sup> クク <sup>ワ</sup> コウキ <sup>カ</sup> アミ <sup>ド</sup> ロ・藻類による表 層はく離	移植後 3 日～ ノビ <sup>エ</sup> 2.5 葉期 但し、移植後 30 日まで	小包装 (ハ <sup>ッ</sup> ク) 10 個 (250g) /10a	1 回	水田に小包装 (ハ <sup>ッ</sup> ク)のまま 投げ入れる。
直播水稻	水田一年生雑草及び マツバ <sup>イ</sup> ホタル <sup>イ</sup> ウリカ <sup>ワ</sup> ミス <sup>カ</sup> ヤツ <sup>リ</sup> ヒルム <sup>シ</sup> アミ <sup>ド</sup> ロ・藻類による表 層はく離	稲 1 葉期～ ノビ <sup>エ</sup> 2.5 葉期 但し、 収穫 90 日前まで			

ピラクロニルを 含む農薬の総使用回数	ピリミスルファンを 含む農薬の総使用回数	フェノキサリホンを 含む農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

## 別紙 2

### 【変更後】

#### 8. 使用上の注意事項

- 1) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2. 5葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ヘラオモダカ、ウリカワは2葉期まで、ホタルイ、ミズガヤツリは3葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- 2) オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- 3) 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 4) 散布の際は、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）にして水の出入りを止めること。
- 5) 散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 6) 本剤は小包装（パック）のまま10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- 7) 藻類・表層はく離、浮き草などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になり、部分的な薬害や効果不足を生じるおそれがあるので使用はさけること。
- 8) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意すること。
- 9) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - ①砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）
  - ②軟弱苗を移植した水田
  - ③極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
  - ④植穴の戻りの悪い水田

#### 10) 直播水稲に使用する場合、以下の点に注意すること。

- ①発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土をおこない、稲の1葉期以降に散布すること。
- ②稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
- ③除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。

- 11) 散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- 12) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 13) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- 14) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- 15) いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。
- 16) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上